

## 2. 青梅市の現状把握

既往資料等から、青梅市における基礎的環境(地理的条件、社会経済情勢、社会基盤の状況等)、公共交通網の現状(鉄道の状況、バスの状況等)、上位計画・関連計画(青梅市総合長期計画等)など、青梅市の現状について整理を行った。

以下にその概要を示す。(詳細は「参考資料1 青梅市の現状把握」参照)

### (1) 青梅市における基礎的環境の整理

- 青梅市の人口は、現在をピークに今後減少することが見込まれ、一層少子高齢化が進展することが予想されている。

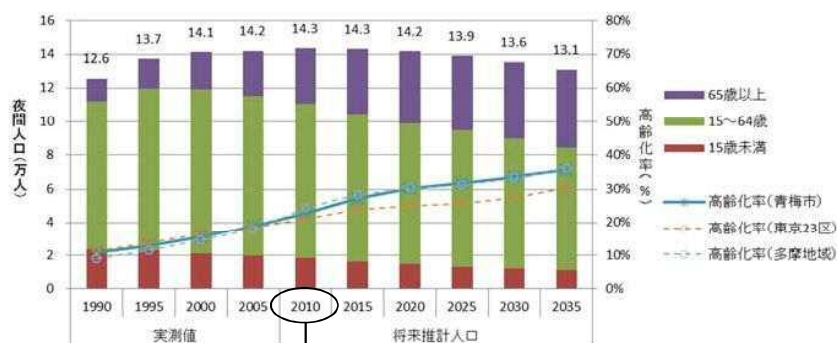


図 2-1  
青梅市の年齢階層別人口と高齢化率の推移

※平成22年国勢調査では、2010年の人口が13.9万人となり、本推計より急激に人口減少が進展している。  
(65歳以上:3.2万人、15~64歳:8.9万人、15歳未満:1.8万人)

資料) 1990~2005 総務省統計局『国勢調査(各該当年)』

2005~2035 国立社会保障・人口問題研究所『日本の市区町村別将来推計人口(平成20年12月推計)』

- 市内には公共交通まで一定以上の距離がある、公共交通空白地域が存在している。また、河辺駅や東青梅駅南側の多摩川沿いの地区などでは、水平距離では公共交通のサービス圏に含まれていても、高低差によって、公共交通にアクセスしづらい地区がみられる。

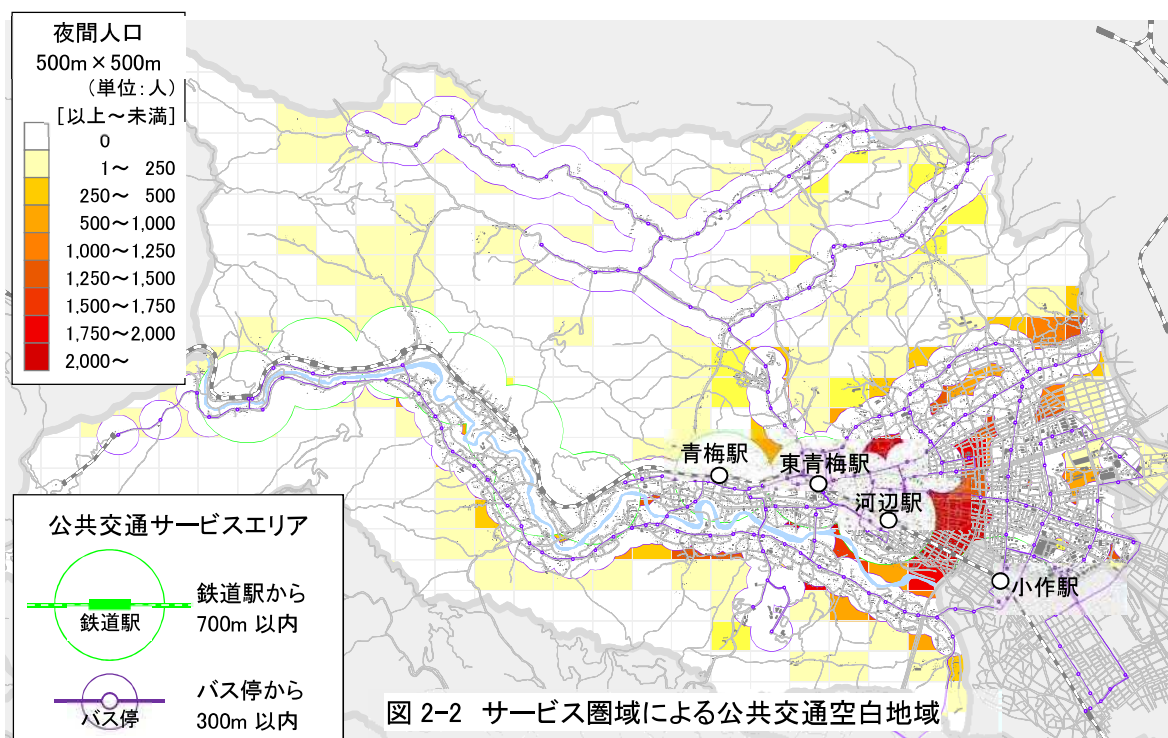


図 2-2 サービス圏域による公共交通空白地域

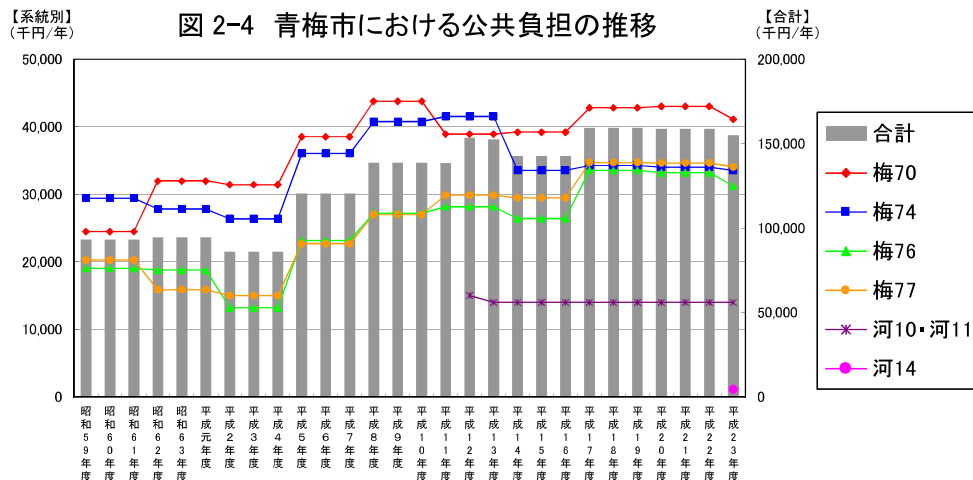
- 青梅市における自動車の分担率(48%)は、多摩地域平均(26%)と比較して高い水準にあることから、地球温暖化対策に向けて自動車に依存しすぎない、利用の仕方が求められる。



図 2-3 青梅市及び東京都市圏の代表交通手段分担率

(2) 公共交通網の現状整理

- 青梅市では、路線バスに対して年間1億5千万円の公共負担を行っており、多摩地域においても最も高いレベルとなっている。



(3) 上位計画・関連計画の整理

表 2-1 上位計画・関連計画の整理

計画の名称	計画の位置づけ
第5次青梅市総合長期計画	青梅市におけるまちづくりの基本的な方向、方針を総合的に示す
第6次青梅市総合長期計画	青梅市における最上位計画となるもの
青梅市都市計画マスタープラン	青梅市総合長期計画を踏まえ、これからのまちづくりを進めていく上での基本的な方針となるもの
青梅市中心市街地活性化基本計画	青梅市中心市街地の活性化を図るため、「中心市街地の活性化に関する法律」に基づき、活性化の基本方針、目標、活性化のための取り組み、推進体制等を定めるもの